

## 第8回 和泉市信太山丘陵市有地保全・活用検討ワークショップ 議事録要旨

開催日時 平成26年12月25日(金) 9:30~12:00

場 所 和泉市役所 コミュニティセンター1階 中集会室

出席者 和泉市信太山丘陵市有地保全・活用検討ワークショップ会員

(1) 学識経験者その他専門的な観点から検討を行う知識経験を有すると市長が認める者(50音順、敬称略)

桃山学院大学社会学部教授	巖 圭介
大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授	藤原 宣夫
大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授	増田 昇

(2) 公募による市民(50音順、敬称略)

和泉市民	小松 修
和泉市民	田丸 八郎
和泉市民	三輪 健一郎
和泉市民	梁取 征弘

(3) 信太校区町会連合会及び鶴山台南校区町会連合会の会長が選出する者(50音順、敬称略)

和泉市民	熊田 泰行
和泉市民	高濱 哲夫
和泉市民	名倉 克巳

(4) 和泉市職員のうち、和泉市長の指名する者(機構順)

和泉市環境産業部環境保全課課長補佐	前田 淳
同 主事	光本 裕輝
同 都市デザイン部公園緑地課主幹	稲垣 学
同 主事	阪口 巧也
同 次長	尾崎 重人
同 道路河川室主事	二田 修志
同 生涯学習部文化財振興課主幹	森下 徹

(事務局)

和泉市市長公室政策企画室室長	小泉 充寛
同 政策推進担当課長	辻野 喜信
同 総括主幹	関戸 正次
同 総括主査	福田 陽介
同 主事	北野 亮介

## 次 第

1. 開会
2. 議事
  - (1) パブリックコメント実施結果について
  - (2) 和泉市信太山丘陵市有地基本構想について
3. その他

上記2 (1)、(2) について、資料に基づき事務局より説明した。

－凡例（ワークショップ会員の区分）－

（学 識）：学識経験者

（公 募）：公募市民

（地 元）：地元町会・自治会

（市職員）：和泉市職員

### パブリックコメント実施結果について

#### <パブリックコメントの実施結果について事務局より説明>

増田会長

パブリックコメントの内容と、それに対して市の考え方を説明して頂いた。非常に貴重な意見を頂いた中では、基本構想への反映ではなくて、実施設計の段階で参考にして頂かないといけない内容もあり、今後検討するという返答になるものが大半であった。その中でも1点を受け、信太山丘陵の300haの領域を変更した方がよいという事務局の判断があり、その部分の差し替えをして頂いたということである。

今までの中で、何かお気づきの点があればお願いしたい。

小松（公募）

開園までの事業スケジュールの部分で、市の考え方として「公民協働による保全活動については引き続き実施予定です。」とあるが、自然観察会なども行うということを入れておけばよいかと思う。

増田会長

きっと保全活動の中に入っているのかもしれないが、市民の方々がその方が分かりやすいということでしたら、「公民協働による保全活動ならびに自然観察会等については…」というような文章にした方がよいのではないかと思う。

事務局はこうした表現で問題ないでしょうか。

事務局

今頂いたご意見のように変更させていただきます。

増田会長

それでは、「…公園開園までにも適切な管理を滞らせるものではなく、公民協働による保全活動ならびに自然観察会等は引き続き実施予定です。」と変更するようにお願いしたい。

三輪（公募）

前回は話題になったパークセンターの位置のことだが、A（の位置）の方がいいという意見が5件あって、この委員会の市の意見を除けば、概ねAが良いという合意があるよう

な感覚がある。この中の内容を見たら前の議論のままになっているが、パブコメの意見を反映してプラスアルファの書き方にしてはどうかと思う。

増田会長

44ページを開いて頂くと、現段階でAの方が優位であると、このワークショップの考えを書いている。これは文化財調査で試掘したら、ここに建てられない可能性があるということを書いているので、我々としては優位だと思うが今はこれ以上踏み込めないのではないか。

田丸（公募）

今のところの書き方として、「文化財調査や生態系の新たな発見など、様々な要因によって」とあるが、あえて生態系の新たな発見と書かなくてもよいのではないかと思う。B（の位置）にこだわってるように感じてしまう。

増田会長

私自身は決してそんな風には読み取れないが、事務局はどうか。

事務局

今ご指摘頂いた部分だが、文化財だけが検討課題ではなく、あくまで多角的に判断すべきことであるという趣旨で記載をしています。

田丸（公募）

この場所だけに特化したものではないように思うので、文化財調査の結果どうしても建てられないことになった時にBにしましょうということにした方が良いと思う。

小松（公募）

下の表に照らし合わせて、文化財調査等という書き方にしてはどうか。

稲垣（市職員）

公園をつくり、管理する側としては、利用者や管理に対してどうであるかも大事なことになるので、文化財のこともあるが、これから色々なことを検討した上で判断していくということは必要だと考えている。そうしたことを踏まえた上で今Aが優位であることは今まで話し合われてきた通りだが、どちらかという以前にまだまだ検証していく必要があることだと考えている。

増田会長

下の表との整合性をはかる必要があると思う。「文化財調査や今後の管理のあり方等の検討によって優位性が変わる可能性がある」という表現にしましょう。

巖（学識）

感想だが、パブコメ2ページ目の2つ目を見て思うのだが、東側は現状のまま保存してほしいということをお願いして、まさにそうした植物を保全したいからやろうとしていることが分かってもらえていないという印象を受ける。分かって頂くためには、今後のアピール、周知の仕方に工夫して、何度も繰り返してやっていくことが重要だと感じる。

増田会長

返答としては、例えば「…これらの貴重な動植物を次世代へ継承していくため取り組んでまいります、その趣旨が伝わるようアピールに努めます。」という所まで書くのはどうでしょうか。そこまで書けば、これからもうまく伝達できるように工夫をしていくということも伝えることができるのではないかと思います。

小松（公募）

50ページの図（公民協働の展開イメージ）について、展開期だが、企画運営会議と公園協議会の間には緑色の円があるが、これが何なのかが分かりにくいのではないかと思います。

増田会長

例えば、試行期には公園協議会があつて、企画運営会議がある。それが展開期になると、企画運営会議は同じだが、公園協議会が外側になる。そうすると緑色で描かれた円は何かということですね。

小松（公募）

そうです。

増田会長

この緑色を外側まで拡げてしまうのが本来の趣旨だと思うが、それだとサポーターになるものを定義しなくてはならなくなる。展開期にどうなるかは、まだそこまで細かく定義する段階でないとも言えるが、ご指摘頂いたように公園協議会が外まで拡大するか、それとも公園協議会はそのままで、外側にサポーターになってくれる層を設けるという方法もある。

気持ちとしては、皆さんがおっしゃっているように公園のサポーターになって頂く人達で、連絡協議会的なものと言ってもいいのかもしれない。

グリーンの部分（展開期も）公園協議会で残しておいて、グレーのところを公園連絡

協議会にする方が分かりやすいということではないか。

### 三輪（公募）

それに関連して、本文の49ページの、文言が前のものが残っている。こういう表現は無いはずなので公園協議会への市民参画のあり方なのかははっきりしなくて、それに絡んで整理した方がいいと思う。

### 増田会長

この47ページを最初から読むと、「計画対象地が公園整備を経て開園を迎えるにあたり、公民協働における活動、話し合いの場として公園協議会を設ける。また、公園協議会には各代表者が集まり大きな方針や方向性を話し合う場として企画運営会議を設けるとともに、より広く参加を担保するため、保全活動やイベントなどの情報を提供し、可能な範囲で自由に参加できる公園の連絡協議的な位置づけの3層構造による組織体制を目指す。」というようにまずする。

その次が試行期だが、「初期段階である試行期は、計画対象地のベースとなる保全活動に注力した期間と位置づけ、公民協働による順応的管理の試行と新たな人材の募集と育成を行う。試行期はこれまでの協議の参画者が主体となることで、スムーズな体制づくりを行い、年間作業スケジュールの試作や運用、モニタリング調査や自然観察会など、保全活動の試行を行う。さらに、周辺施設の管理者や学校にも広く参加を募り、可能な場合は企画運営会議への参画も促す。また、公民協働により、周知を目的とした自然観察会や、人材を育成するための保全管理講座を開くことで、保全の知識や技術をもった新たな市民が公園協議会へ参画できる道筋を設けるとともに、すでに計画対象地以外で保全活動の経験のある人材を募集し、公園協議会への参加を促す。」とする。

試行期の公園協議会の構成だが、「学識経験者、既存の保全団体、他地域で保全活動の経験がある個人、保全管理講座を受講した新規参画の個人、地域住民、市関係部局など」と、試行期の企画運営会議は、「公園協議会の代表者が集まり、試行期の保全活動や人材の募集と育成についての方向性やあり方を話し合う。」はそのまま。

その次の展開のページ（48ページ）の上から展開期の公園協議会は、「試行期を経て、一定の保全活動や人材の募集と育成の進め方が定まった段階で、市民による計画対象地での市民活動の多様化や周辺の施設との連携を図る発展期へと移行する。展開期としては、公園協議会自体が一つの運営組織としての結束が強くなる過程で、それまで計画対象地で保全活動に関わって来た個人と、保全管理講座の受講生や他地域で保全活動を行っていた個人といった、個人の構成によって運営されることも考えられる。さらに、より規模の大

きな保全活動を行うため、保全作業やイベント時に自由に参加できるサポーター等に対し、計画対象地の保全状況や作業実施日などの情報を提供する公園連絡協議会的な仕組みづくりを行う。また、サポーターには、頻度の高い参画が困難な周辺施設管理者や学校なども位置づけ、情報を提供し続ける姿勢をとることが肝要であり、それら以外にも民間企業など、様々な主体の参加を柔軟に募る。」としましょう。

展開期の公園協議会の構成は、「学識経験者、保全に関わって来た市民、他地域で保全活動の経験がある個人、保全管理講座を受講した新規参画の個人、自由度の高い参加を望む個人、地域住民、周辺施設管理者、周辺の学校、民間企業、市関係部局など」で、展開期の企画運営会議は、「公園協議会参画者の多様化に伴い、その時点で検討すべき課題に対して必要なメンバーによって、公園協議会の代表者が集まり、企画運営会議を行う。」これは問題ないですね。

### 三輪（公募）

今の48ページのところで、展開期の参加は基本個人であることを強調して書いてあるが、構成メンバーの地域住民までは個人で、施設管理者は代表だと思うが、それから下はいわゆる法人としての参加である。このへんの個人と法人がいてる構成で大丈夫なのかと思う。

それと、試行期については既存の保全団体とあり、そこから団体ではなくて個人のかたちでやっていくという形を出しているとは思いますが、気持ち的にすっきりしないところがある。個人での集まりとしての協議会をやるということだったら、その後の学校や民間企業だとかいうことも、同格と扱うのはどうなのかと思う。

### 梁取（公募）

公園協議会と先ほど出てきたサポーター的な公園連絡協議会というのは、違うかたちでそれでよろしいのかなと思う。

### 三輪（公募）

ということは、今議論にあった、試行期においても学校などの矢印があり、可能なら入ってきてほしいと、それは団体も絡んでいるので一致している。その次で、個人というのを全面に出しているなかで、その人達はサポーターとして先ほどの公園連絡協議会というのに入ってくるというなら分かる。

### 増田会長

展開期の書き方は、外側の話なので連絡協議会のことなのかもしれません。その前に連絡協議会のこと書かれているので、連絡協議会をタイトルとしてここに書いておくといい

うことではないか。

展開期は、今既存の保全団体の方々に入って頂いているが、一定活動したら垣根が低くなって、一体化するのではないか、もしくは一体化してほしいというのが意図だと思う。

最終的には、周辺の学校についても、学校が利用するというののためには学校に入ってもらっていたら、来てもらいやすくなるという意味だと思う。それはなんら利益代表という話ではなく、学校の例えば校長先生と一般の人が同じテーブルについて議論するというのは、そんなにおかしな話ではない。

三輪（公募）

そうすると、公園協議会のままでいいのか、連絡協議会にするのか、そこらへんだと思う。

増田会長

みなさん今の話を聞いてどう思われましたか。

藤原副会長

連絡協議会を（公園協議会の）外側に足してはいかがですか。

増田会長

公園協議会が展開期に膨らんで、外側にサポーター的な人達の立ち位置として連絡協議会を生み出していくと、そういう形で足しましょう。

その次（49ページ）の読み合わせをしましょう。部会の言葉が残っているということですが、市民参画のあり方ですが、「計画対象地に参画する市民の役割は計画地を利活用したプログラムの担い手であり、参画を希望する市民（個人、団体）は、公園の理念やルールに賛同し、公園協議会に登録した上で、趣味や専門性を活かした様々なプログラムを実施することが可能となる。新たに参画する市民（団体）は、公園の利活用についての提案や、場合により既存団体への協力を行い、連絡協議会での調整を経て、保全活動の1形態として参加する。」として、「市民（個人）においては、既存の団体の活動やイベントへの参加などを行う。なお、既存団体への参画や、それらを通じて得られた経験や人間関係によって、新たな活動グループへと発展することも考えられる。」の文章はいいかもしれない。そういう形でよろしいか。

田丸（公募）

（48ページの）展開期の部分になるが、試行期の保全団体が個人になるという話が出ていた。これについては段々と変わっていくとは思いますが、信太山丘陵の生態を良く知っている団体は2つの既存団体だが、展開期においてもこの既存の保全団体というのを入れる



べきではないかと思う。そうしないと、保全に関わってきたというだけで、そういう中から企画運営会議に参画してと言われても、もし今までの生態系を知っている人が少なければ、質が変わってしまうのではないかと危惧している。ですから、やはり展開期においても既存の保全団体が入ってやっていくべきではないかと思うがいかがでしょう。

増田会長

基本的には試行期の間にはしっかり技術継承をして、新規の人を増やしていかなくてはこの16haは守れない。そのためにしっかり保全講座をして技術移転をし、しかも公園協会で管理の仕方を共有して活動していかないと、そして目標とやり方を工夫した組織をつくっていかないと部分的には守れても、全体は守れない。そういう広がりを持たすために、展開期はこういう記述をしているということです。

三輪（公募）

そういう意味でも、49ページの市民参画は非常に大事な意味を持つ部分で、「市民参画のあり方」では、市民参画はどうしたらできるのか、そういう所がこの1ページだけでは弱い気がする。四角で囲われた「市民参画による主なプログラム例」のところでは、保全整備活動だとか、イベント、工作系だとか、人材育成とかに講師役と書かれてあったりするが、こういう講師役を担えるように一般市民の人にも色々勉強してもらいたいということだと思う、その勉強をやってもらうためにどういうことがあるのかが無くて、市民参画はこうしたらできますよということを行っているだけで、興味ある市民がそうしたらこれに基づいてやったらできる、自分たちがこうしたら担い手になっていけるという具体的な流れが分かりにくいと思う。だから、真ん中の段は、我々だとか興味のある人が講師としてやると、それは市民参画として講師が出るのか、市民参画のために市民に講座を開くというのではないかと思う。もう少しすっきりできないかという気持ちがある。

増田会長

パブコメをかけたこの段階で、大幅に変更はできないと思う。特にあまり意見の無い部分では。詰め切れない所はあると思うが、それはなぜ年明けにもう一度会議を持って、来年度どういうスタートを切るのかという話をしましょうということで、そういう意味があつてのことです。ここを今の段階で詰め切れるのかということや、大幅に改定するのかということは甚だ不安である。ある一定間違いのないレベルで留めておいて、次年度に継続していくことが大事だと思う。

小松（公募）

試行期はもう直近の話なので細かいところを書いてあるが、展開期については今の段階で決められないことも多いのではないかと。ただ、さっき出てきたサポーターの登録を誰が

受けるのかということや、保全作業の計画をつくって、それに沿って活動していかななくてはならないので、それを作る主体は誰なのかははっきりさせておく必要がある。市の役割について49ページの下の方にあるが、役割分担としてはまだ今の段階では一定の事務局機能を担うのは市に求められる大きな部分なので、それを追記して頂けたらと思う。

増田会長

それは一つ必要なことだと思う。

三輪（公募）

先ほど言っていた市民参画の文章の部分で、2つに区切った方がいいかと思う。その一つは、興味のある人に対してどうすれば参加してもらえるかということ、もう一つが、その中で講座を受けたりしながら、一定の知識のある方が、より協議会を引っ張っていく人として育て、新たな講師役の担い手となっていくのか。この2つの部分は書いておいてもいいかと思う。

増田会長

事務局としては、市民参画のあり方の部分はどちらをイメージして書いていますか。展開期のあたりの将来的なイメージを書いて頂いている気がするが、どちらでしょうか。今おっしゃって頂いたように、展開期は今はまだ見えない部分があるので、むしろ試行期の市民参画のあり方を書く、興味のある方がまず受講をして、それからゆくゆくは連絡協議会ができるのでそこに参画して頂いて、さらに公園協議会へ展開するというようなステップを書くということだと思う。

藤原副会長

今の市民参画の書き方でも、第一段落が協議会メンバーになってどうでしょう、第二段落がサポーターメンバーから始めましょうという書き方になっているのが、順番が逆なので分かりにくいということだと思う。それを改めれば、三輪委員の意見が反映されるのではないかと思う。田丸委員がおっしゃられた、ずっと関わってこられた方々の力をいかす方向で、ということは、48ページの公園協議会の構成が、意図的にはあるのですが個人としていますので、2行目を「保全に関わって来た市民、団体」という書き方で反映されるのはどうでしょうか。

増田会長

まず48ページからいくと、展開期の公園協議会の構成の2段目は「保全に関わって来た市民、団体」にしましょう。他に団体が参画する場面はここではありませんでしょうか。

小松（公募）

他の団体に声をかけて活動に参加してもらおう場面はあるかもしれない。

藤原副会長

ありえる展開ではあるが、これは公園協議会ではなくて連絡協議会の方なので。

小松（公募）

誰でもいいくらいの位置づけですね。

増田会長

確かに公園協議会の方ですから、これでいきましょう。

その次の49ページが難しく、今日はやはり一定けりをつけておかないと、ワークショップ会長まかせでは大変なので、ここだけは皆さんと話をしておければと思う。

最初から行きましょうか。順番からいきますと、二段落目から書き始めて、「新たに参画する市民・団体は、公園協議会が実施しているイベントや保全管理講座に参加し、本公園の理念や目標を共有した後、保全活動に参加する。これまで参加してきた市民や、上記で目標や課題を共有した市民は、計画地を利活用したプログラムの担い手として公園協議会に登録し、趣味や専門性を活かした様々なプログラムを実施する。」という書き方でいかがでしょうか。

次に市民参画に対する市の役割は、試行期についてのことなので、市が事務局的功能を当面は担う必要があるのが実態だと思う。その辺は、市としてはいかがですか。

事務局

これまでの議論でされていたことで、最初市が事務局を担うのは当然だと考えています。

増田会長

そうですね。なので、一番最初の部分に事務局的功能を担うという文言を追加してください。そして、6の2のタイトルは、「市民参画（試行期）」という文章にしましょう。皆さん、これでいかがでしょうか。

それでは、他にお気づきの点があればお願いします。

森下（市職員）

11ページの地図の部分で、信太山丘陵を示している色が、池の色と混同してしまうので、少し色あいを整えた方がよいかと思うのと、15ページの部分で明治20年頃の演習場としての面積は当時360haくらいということの方が史実として正しいので、今の段階

ではあるが変更をお願いしたいと思う。

11ページに戻るが、地域コミュニティ部分は、「鶴山台団地」と「丸笠団地」を消して、「鶴山台」は「王子町」と同じように引き出しにして方が良いと思う。あと、惣ヶ池遺跡を紫の丸の方がよいと思う。ふるさと館と聖神社やシリブカガシ林のところは、ほぼ同じ場所で複合しているので黒丸になっていると思うが、どのように表記すればよいか、みなさんにご意見を頂きたい。

あと、鶴山台のところに下線が入っているので、なにかの残りかと思うので、必要ないようでしたら取ってください。

増田会長

1つずついくと、史実として正しい書き方をしておく必要があるので、本編の15ページのところ、明治20年頃は約360haの方が正しいということでしたので、これは市の内部でもう一度確認して史実に沿った方で書いておいて下さい。

その次が、11ページの差し替えの絵のところ、信太山丘陵を示している部分は、色のトーンをグリーンならグリーンに分かりやすくした方がよいのではないかというご指摘で、

その次は黒の凡例が無いというのが1点で、ふるさと館やシリブカガシ林、聖神社、鏡池が4つくっついているので黒丸一つになっているが、本当は自然環境系の緑と歴史文化系の紫と施設系の青の3つを付けておいたほうがよいと思う。惣ヶ池遺跡は黒を紫に変えると対応できると思う。

その次に、線が残っている部分は消してください。続いて、鶴山台は引き出して表記してください。

田丸（公募）

31ページの植生図で、ピンク色で囲われている「アカマツ-モチツツジ群集」となっているが、信太山の特徴は、昔はヤマツツジが一面に咲いていたという環境にあったわけだが、今はその他の樹木に覆われて日陰の中に隠れて全然成長できないようになってしまっている。この図でいくと、⑥の草原の西側やその向いの斜面はツツジ群落であった。これから整理が進む中で、埋もれているヤマツツジはどんどん復活していくと思う。そういう意味では、この「アカマツ-モチツツジ群集」であるが、ヤマツツジが衰退しているので、モチツツジが目につくが、ここの表現は「アカマツ-ツツジ群集」とした方がよいのではないかと思う。

増田会長

今ご指摘された部分は、目標植生ではなく現況植生だと思うが、藤原先生としてはいかがか。

藤原副会長

「アカマツ-モチツツジ群集」というのは学術的な分類名称なので、中にヤマツツジがあってもミヤコツツジがあっても、群集名としてはこの名称を使うのが正しい。ただ、本当に

「アカマツ-モチツツジ群集」であるかが怪しいようでしたら、「アカマツ-モチツツジ群落」という書き方をすると、群落は調べた人が自由につける名前なので、そういう書き方もある。

増田会長

これが学術的な書き方ということだが、ヤマツツジ群落という程にヤマツツジが目につくかという、目標としてはあり得るが、現在はあまり目立たない状況ではあると思う。

藤原副会長

三輪委員としてはどうか。

三輪（公募）

調査された中でこの学術名称に当てはめられているので、現況の書き方としては「アカマツ-モチツツジ群集」ではないかと思う。

藤原副会長

これは調査結果なので、恐らくこれが正しいのではないかと思う。

増田会長

環境部局の調査結果を受けてのことなので、ここも公式なものを用いているということだと思うが、これは確認させて頂いて、学術的に正しい方を用いるようにしたい。

田丸（公募）

もう1点だが、信太5号線について、カスミサンショウウオが道の東と西を移動する可能性がある。そういう所で、カスミサンショウウオの通過できる道を考えていかななくてはならないと思う。そういう時に、溝のようなものを幾つかもうけてほしいと思っているが、ただ今回のワークショップが終わった後、公園協議会には道路課も入って頂けるのか。

増田会長

道路課さんとしてはどうでしょうか。

尾崎（市職員）

公園協議会は公園の保全と活用について進められていくと思うが、その中で道路の話になる場面で参画する必要があると考えています。

増田会長

51ページの所を見て頂くと、公園への配慮事項として「公園の敷地を分断するため、生態系の連続性、利用上の連続性への配慮に努める」と入っている訳ですから。

田丸（公募）

計画する時には公園協議会に意見を聞きながら進めるということを表明して頂けないかと思う。

尾崎（市職員）

道路課としてはパブコメの所や先ほど出ていた公園への配慮事項にある通り、関係者と協議を進めながらということは当然のことなので、その通りに進めていきたいと考えている。

増田会長

ここまで話をして来て、道路整備がここを無視して進むというのはありえないので、そこまでご心配されなくてもいいと思う。基本構想にも配慮をすると書いて頂いていますので。

三輪（公募）

ということは、来年度から始まる予定の5号線の設計には入るということですか。

増田会長

適宜ここにはご報告いただきながら設計が進めるという方法論を取られると思うが、いかがか。

尾崎（市職員）

ご報告さしあげるように考えている。

三輪（公募）

前回にも言わせて頂いたが、来年度からの計画の中で基本設計が入るということだが、ではその道をどのようにつけるかという話では、色々ご要望をした。それがはっきりしていない状態で、本当に来年度策定ができるのかということが、間に合うのかを心配してい

る。

はっきり気持ちが固まっているのであれば、それを示して頂きたいという不満がある。

尾崎（市職員）

その辺は、第 5 回目の時に A 案、B 案というルートと断面を出させて頂いたが、当然計画が進む中ででは、常にご報告していく必要があると考えている。

ただ、道路としては安全面に十分配慮する必要があるので、ご理解頂きたい部分ではある。

小松（公募）

道路のことで、パブコメの 3 ページに、惣ヶ池と大野池を自然遊歩道でつなぐ意見に対して、今後の参考にするということが書かれているが、参考にするとはどういう意味かが分からない。そんな歩道をつくるという話は、ワークショップでは出たことがないので。

増田会長

（道路の）横断部分を自然遊歩道的にするのは無理だと思う。

小松（公募）

これはちょっと、今後の参考にするのは厳しいのではないかと思う。

三輪（公募）

万博公園の樹冠を見ていくような木道のようなものがあるが、あのような高さで道路も渡って、そのまま樹冠を見るような工夫もあると思う。5 号線とは直接関係はないが、そのようなものも検討してもらいたいと思う。

増田会長

今後の参考にさせていただきますというのは、渡りの部分は少々幅広いものをつくるという部分だと思う。この辺りは参考にさせて頂かないと、通常の横断歩道ではないでしょうということだと思う。それも含めて参考にするということで書かれている。

どういう渡りをそこにつくるかというのは、ロードキルが発生しないことも含めて、どうやって渡るのかということだと思う。

藤原副会長

ここで出来る出来ないが決めることではないが、この場で何に憂慮してこうした議論があったということは、しっかり残しておいて頂きたい。

増田会長

これで修正、加筆について全て終えたと思いますし、(パブコメの)市の回答についても少し修正が出たと思うので、今日合意があったように少し直して頂きたいと思う。

議事の2に当たるかと思うが、基本構想の今後の取扱いについて、事務局より流れをご説明頂きたい。

事務局

今後のスケジュール感としては、年度内に策定し、議会に報告して市民の皆さんに公表するという流れになる。

増田会長

我々の役割である基本構想については、今日で一応終了する訳であるが、来年度に向けてということで次回もう一度、9回目のワークショップについて事務局よりご説明頂きたいと思う。

事務局

第9回のワークショップにつきましては、新しい組織についてご報告させて頂きたいと考えているので、それに向けて調整ができ次第、改めて日程の調整を行いたいと考えている。

藤原副会長

大体いつくらい、というのは分かりますか。

事務局

2月末くらいを目標に考えています。

増田会長

1点お願いがあり、年度内に一定枠組みをするのは、年度が明けてから動き始めると半年間動けなくなるので、それに配慮頂いた形であると思う。保全活動を継続してやっていくには、年度変わりで空白期間が発生しないように重ねてお願いしておきたいと思う。

藤原副会長

2月末のワークショップ前くらいに、作業部会の開催をお願いしたいと思う。外での作業ではなくて、室内で今後の活動について話し合いの場を持ちたいからです。日程は1月の末か2月の上旬くらいでお願いできればと思う。



事務局

分かりました。調整致します。

三輪（公募）

湿地の草刈をしなければいけないシーズンなので、この前は草地の草刈で、一般の方にも呼びかける形でやったが、湿地は狭いのと作業に慣れた少数のメンバーでしなければ、踏み荒らしてしまうので、今関わっている2団体の経験があるメンバーでやらして頂いた方がよいと思うがいかがか。

藤原副会長

でしたら、作業部会の話し合いを少し早めて頂きたい。

増田会長

これまでで言うと、いつの時期が適切ですか。

三輪（公募）

できるだけ早い方がいい。2月に入ると危ない時期になる。

増田会長

そうすると、ちょっとこのワークショップの後で、今主要な方々がいてるので、調整して頂きたいと思う。

それでは、8回に渡り議論をしてきたが、このワークショップの目的は基本構想だけでなく、平行して具体的な保全活動も行ってきた。これは継続してこれからもやっていかなくてはならないことだが、基本構想の議論は今回で一定終わりました。ありがとうございました。

来年もう一度、この年度の体制で次年度へつなげるために開催させて頂いて、次年度スムーズにスタートを切りたいと思うので宜しくお願いします。

それでは進行を事務局にお返ししたいと思う。ありがとうございました。